

【補助事業概要の広報資料】

補助事業番号 26-2-009
補助事業名 平成26年度 こどもが幸せに暮らせる社会を創る活動 補助事業
補助事業者名 公益財団法人がんの子どもを守る会

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

小児がん患児のきょうだい支援については当会を含め院内や支援団体等で行われ始めているが、思いだけで実践につながらないものもある。そこで、きょうだいに纏わる様々な課題を整理し、きょうだいやその家族、医療従事者など支援者や周囲の人々全てが共に話し合い、何ができるかを考えるための指針（ガイドライン）を作成することで、支援の発芽を実現させるために後押しをすることを目的としている。

(2) 実施内容

1) ガイドライン作成委員会

委員は、小児がんの子どもの父親・母親、きょうだい、小児がん経験者、医師、看護師、保育士、ソーシャルワーカー、小学校教諭で構成され、オブザーバーとして慢性疾患患児のきょうだい支援を行っている実践家を招き、委員会を開催した。

昨年度に行った公開シンポジウムでの反響及び意見・体験募集を踏まえて、ガイドラインの骨子案を検討する委員会を開催した。当初の予定では、ガイドライン作成委員会の開催は6月と10月の予定だったが、ワークショップを挟んでの開催がふさわしいと委員会での議論で決定し、11月と2月の開催となった。

11月の委員会では、ワークショップで提案するための目次案を作成した。2月の委員会では、ワークショップでの意見を基に再検討を行い、最終の目次案及び骨子案を作成した。

2) 当会公開シンポジウムにおけるワークショップの開催

<http://www.ccaj-found.or.jp/news/info/56-sinpo/>

第56回日本小児血液・がん学会及び第12回日本小児がん看護学会学術集会と並行開催で行われた第19回公益財団法人がんの子どもを守る会公開シンポジウムにて、ワークショップ「きょうだいのガイドラインを作ろう」を開催した。

全国の小児がん患児・家族及び学会参加者の医療従事者の約140名の参加があり、会場からは提示した目次案に対する活発な意見が寄せられ、今後の作成の貴重な機会となったばかりでなく、小児がんの子どものきょうだいの経験や想いを共有する場ともなり、充実した時間となった。

会場入り口



ワークショップの様様



2 予想される事業実施効果

具体的なガイドラインの作成という目的を持って、ワークショップにて小児がん患児・家族及び小児がんの子どものきょうだいに関わるもしくは関心のある医療従事者が、共に議論をしたことで、小児がんの子どもたちのきょうだいに対する患児・家族と医療従事者の想いの摺合せが可能になり、今後、各地域の医療機関でのきょうだい支援の取り組みを試行するきっかけとなったことが、当日のアンケートから分かった。

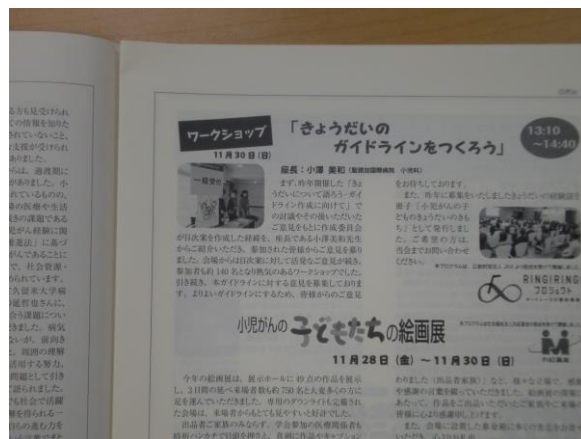
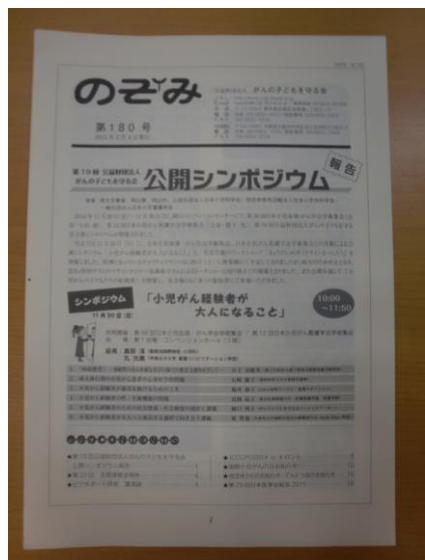
児・家族、医療従事者にとって有用なガイドライン成への一歩となった。

3 本



(別紙5)

(2)(1) 以外で当事業において作成したもの
がんの子どもを守る会機関誌「のぞみ」第180号(ワークショップについて掲載)



4 事業内容についての問い合わせ先

団体名： 公益財団法人がんの子どもを守る会 (ガンノコドモヲマモルカイ)

住所： 〒111-0053

東京都台東区浅草橋1-3-12

代表者： 理事長 山下 公輔 (ヤマシタコウスケ)

担当部署： 事務部 (ジムブ)

担当者名： 岡部 耕一郎 (オカベコウイチロウ)

電話番号： 03-5825-6311

F A X： 03-5825-6316

E-mail： nozomi@ccaj-found.or.jp

U R L： <http://www.ccaj-found.or.jp>